

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	私たちは、「地域の中で自分らしく暮らす」という事を理念とし、日常の中でサポートしています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や各勤務に入る際に、全員で基本理念及び介護理念を復唱し、理念の実践を心掛けています。日々の現場の中では、手洗いの際に鏡でのスマイルチェックをしたり、近隣の方への挨拶を通して顔馴染みの関係作りを築いています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議において、近隣の自治会及び老人会そして、民生委員の方、青年会、消防団など、地域の方とご家族を中心としたメンバー構成で、当事業所の理念に基づいた地域の中での新たな役割や、期待される役割等もご意見頂きながら実施させてもらっています。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	認知症の家族を介護してきた法人代表、管理者により、観光スポットへ徒歩で行ける昔からの街中に建つ築49年の実家の改装で開所されたホームである事。その馴染みの関係性の中でホームとして老人会活動の参加や地域の公園清掃、日常的なスーパーへの買い物等を通し、入居者の方とも顔馴染みの関係を築いています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の近隣清掃や老人会活動の中での公園清掃や、子供を守る100人パトロールへの参加等、積極的に地域の活動に参加しています。又、地域で行われる行事にはほぼ全員が何らかの形で参加し顔なじみの関係に努めています。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会の役員をさせてもらう事により、地域の独居や単独世帯の高齢者を中心に、訪問し声を掛け顔馴染みとなる事で、玄関先で清掃中や草花の手入れをしている時などに、気軽に家族の方からも声を掛けてもらい相談を受けています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的な週1回の全体会議において、改善策等を検討したが改善計画書は作成しなかった。	○	具体的な改善計画書の作成を行い、次回につなげ活かしていける仕組み作りに取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価の結果を運営推進会議において公表する事で、意見を頂いた一つに、消防団や近隣協力隊メンバーとの合同避難訓練や、避難経路の確認等がありました。実際に避難経路の確認はして頂きましたが、合同の避難訓練の実施には至っていないので、積極的に行いたいと考えています。	○	一部の近隣協力隊メンバーとの避難訓練は実施したものの、消防団との合同避難訓練を行う事で、緊急時の入居者の安全確保により一層努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議において市町村担当者と率直な意見交換が出来ましたので、相談しやすくなりました。又、グループホーム連絡協議会に参加する事で、各事業所の問題や意見を吸い上げ、それらを市町村担当者と協議する事で、ともにサービスの質の向上に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に地域権利擁護事業を利用されている方がいらっしゃる事で、月に一度の支援があり、内容についての学びの機会が多い。又、必要な方にはそれらを活用出来るよう、お話させて頂いております。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の講習会において、高齢者虐待防止関連法についての勉強させてもらい、それを伝達研修にて内部の勉強会に活かし、共通認識の上において施設内での防止に努めています。	○	新聞等から虐待のニュースや認知症に関するニュースを抜粋し、回覧として職員へ周知を促しています。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書を用いて説明を行っています。その時に、不安点や疑問点に付いてお尋ねしていますが、その後も随時お気軽に声を掛けて頂くようお願いしております。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成18年度より介護相談員の受け入れをしており、年に数回の訪問があり、入居者の方々の相談にのって頂いています。週に1回の全体会議において入居者の方も積極的に参加されています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が市内にいらっしゃる方は、健康状態に合わせて月に1度は訪問をして頂く様にお願いしており、外出の際のビデオ上映や写真を見て頂いたりし、報告をさせてもらっています。市外及び県外にいらっしゃる方は、主に外出した際な		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加をお願いし、そのさいにも苦情相談窓口にも外部の方へもお願いしていますという事を紹介させて頂いたり、入居者お一人お一人に、管理者以外の担当スタッフをご家族に紹介させて頂き、率直な意見を頂くように心掛けています。	○	家族会の組織の設置に取り組みたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、代表者自らが本音を話すよう心掛けており、運営者・管理者がスタッフと個人面談を実施し、職員の意見を聞く機会を設けています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	普段の勤務において、職員が希望の休みを取りやすい環境に努めており、それによって事前に職員確保が予測される場合も、急な状況の変化によって職員の確保が必要な場合も快く勤務してもらえます。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の方へのダメージを最小限に抑える為に、新規職員に対しては個々への対応等、細かい所での情報提供や指導を行い情報を共有する事で、馴染みの関係を演出する事が出来ると考えています。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び総務員は自らの話し合いの中で、個々の職員の立場や経験、習熟度に応じた研修への参加を促しており、又、職員にもどのような事を勉強していきたいか等も面談等の際に希望を取り入れながら、研修参加の際には交通費や報酬などの働きながらでも学べる環境作りも配慮するように努めています。	○	各職員の経験年数や習熟度等に応じた、年間研修計画を文書化していく。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人主催の勉強会や介護福祉士会主催の研修会等を年間通して、継続的に参加する事で意見交換・交流を職員間で行っています。それにより、他事業所での対応等を通じて自分たちのサービスの質を振り返る機会となっています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	まず運営者は職員がストレスにならないような職場環境作りを心掛けており、又休憩場所を事業所外に設けて、短時間であっても職員に取って居心地の良い空間となるような配慮をしています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々のサービス提供の中で、介護等についての職員の提案や問題提起を、聞き入れてくれ、受け止めてくれる運営者がいてくれるからもっと良くしていこうという意欲へつながっています。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	開所から現在まで、御本人様から相談～利用を受けた事はありません。	○	相談を受けた際には、まず施設の見学、代表者及び管理者が御本人様からよくお話をお聴きする機会を設け、御本人様にとってより良い結果となるよう努力していきたいと思います。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた際には、現在困ってる事や不安な事をお聴きする機会を設け、認知症と家族の会等の紹介をさせて頂いたり、施設の見学をして頂き、他の施設も見学される事をお勧めする事で、御本人様にとっての生活の場を選択出来る		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用の相談でも、よくお話をお聴きしていくと、もう少し手助けがあると、在宅を続けたいなど御本人もご家族も、ニーズが顕在化してくる場合も多い。その為、相談の場合には何の支援が今必要とされてるのかを見極める為に、相談を受け		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御利用開始時に、対応する職員を1人で担当し、まずはその職員と馴染みの関係になって頂く事で御本人やご家族も安心して御利用出来るような環境作りをしています。お一人お一人によって違いますが、ご家族と相談し、事前に日中の利用が可能であればそうして頂いたり、まずは短期の宿泊から頂く場合もあります。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	御本人が主体となり、その人なりの役割を持って生活する事で、共に支え合う関係を築く努力をしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	病院受診後の報告やイベントの際の写真などをそれぞれのご家族へご連絡させて頂き、月に1回は訪問して頂くような、働きかけと細かい連絡により、ご家族との関係性も密になっています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御本人様へご家族が大切に想ってる事などを、伝えたり、入居されるまでは不仲であった家族関係がこんな事を言われてました。など、逆に御本人の思いをご家族に伝える事で、御本人に対しての思いが変わりました。と言って下さるご家		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会に来られた方がお帰りの際には、御本人が喜ばれてる事をお伝えし、又ご面会に来て頂けるような働きかけや、お弟子さんの美容室を、継続して利用出来るよう、支援に努めています。他には、御本人の馴染みの場所へお連れしたり		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の中で、人間関係の合う合わないを把握して、個室に閉じこもりをさせず、利用者同士が関わり合い、相互関係が築けるような支援に努めています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	この2年程はサービス利用の終了がありませんが、それ以前は入院されても御本人やご家族が戻りたいというご希望がある限りは、入院中も交替で毎日ご家族と食事の介助に通ったりしていました。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
	1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自宅への思いがあられる方には、ご家族と協力して月に1度はご自宅への外出日をご家族に調整して頂き、昼食をご家族で食べて来られるなどされている方もいらっしゃいます。困難な場合は利用者様の表情や目線等を観察し、本人本位に検討する機会を設けています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族、御面会者の方々から、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方をお伺いしたり、在宅でのサービスを受けていた方は、ケアマネージャー等より、利用経過を情報収集し把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	今、出来る事、潜在的に出来るであろう事に、日々の生活の中で常に着目する視点を持つ事を心掛け、お一人おひとり個々へのアプローチに取り組んでいます。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御本人にとって、そして御家族にとってより良く暮らす事を考えて、職員も真剣に意見を出し合い、介護計画に反映させ作成するようにしています。	○	現在、事業所独自のアセスメントシートの見直し中です。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	週に1回職員全員での定例カンファレンスの中で、新たな気づきや情報を共有し、勤務前の申し送りにて日々の変化を捉えて行く事で、必要な関係者と連携を密に取れています。その上で現状に即した介護計画の作成に取り掛かる事が出来ています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かすよう努めています。日々の記録については、職員全員の課題として取り組んでいます。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御本人の状況や御本人の御家族の状況に合わせて、事業所が提供できる支援を提案させて頂き、実際にしています。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の派出所の警察官や出張所の消防官が、年に数回、定期的に訪問して頂き、避難誘導経路等の指導も頂いてます。他、地域の消防団や民生委員やボランティアの方も不定期ですが、訪問・支援していただいています。近所に文化・		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	御本人や御家族の御希望があれば、市町村のサービス利用も支援出来ますが、地域の中で生活されてる御入居者の方々は、地域の理美容院等をご利用されているので、現在は支援がありません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業を利用されている方がいらっしゃいます。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関への初診時は必ず御家族にも同席して頂き、緊急時等も安心して頂けるよう、配慮しています。協力医療機関でなくても、その後協力が得られるように、医師と連携を取っています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居されてる全員が、認知症を専門にされてる心療内科医に定期的に受診しています。その中で職員が相談させてもらったり、次回の受診予約日までに相談があった場合も病院や医師の携帯と連絡を取り合っています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所内に看護職が5名在籍しており、身体的な変化や精神的な変化も含めて日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御利用者が入院された時は、情報提供書の提出及びほぽ毎日の様に通い、御本人及び御家族の御希望を確認し、医師の説明時に同席させて頂いたり、早期退院に向けた支援をしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階でまず、御本人と御家族の意向を確認し、状況に変化があった場合には、都度細かい点を確認しています。	○	今後は細かい項目の文章化に取り組んでいきます。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	御本人と御家族の意向を確認した後、代表者や職員全員で事業所として、支援が可能な事、難しい事、不安な事を率直に話し合い、御本人や御家族にお話させてもらっています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供書をそれまでの日常生活が判るように詳しく作成し、御本人にとってダメージが少なくなるような支援を御家族や関係者とともに協同して行うよう努めています。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	お一人お一人の誇りや自尊心を損ねるような言葉かけは、直接職員に対して介護拒否や興奮などの反応で還って来ます。もし自分だったら・・・と常に自分に振り返って言葉かけや対応に心掛けています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の会話の中でも意図的に、その方の考え方や感じ方を引き出して行くような関わりを持ち、御自分で意思決定したり、納得しながら日常生活を送れるように支援しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まず、御本人が納得される事が一番大切だと考えているので、職員側の決まりや都合を優先するのではなく、御本人の希望を優先する支援をしています。どうしても、その時に無理の場合は御本人にとって納得出来るような説明をさせても		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御本人に御希望がある場合には、そのお店の方と連携を取り、行けるように支援しています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は本当に皆さん楽しみにして頂いています。準備から後片付けまで快くして下さいます。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	御本人がご自分用のおやつを買いにスーパーへ行かれたり、3時のおやつタイムのお菓子やお饅頭などをスタッフと一緒に買いに行って、好きなおやつを選んでもらったりしています。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各個人の排泄表で排泄の状態や間隔などの習慣を把握し、リハビリパンツを使用されている方も日中は布パンツへ変更し、夜間のみリハビリパンツへなど、実践しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の好みに合わせて、時間帯や温度など様々な配慮をして、入浴を楽しめるように支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お昼寝を居室でゆっくり出来ず、逆に人の気配がする居間のソファなどが休めるという方もいらっしゃいます。冬場寝つけない方には、足浴や湯たんぽを活用したり、しています。そういう状況を把握していく事で、安心して気持ちよく眠れ		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中での役割は出来る事出来ない事だけでなく、好む事好まない事にも着目し、その方が役割として楽しくされているかが重要と考えます。その中で楽しみごとを加えつつ日常生活を送って頂けるように努めています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う事が楽しく、またその事を求められてる方は、御家族と協同しながらお金の心配をせずに使えるように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いつでも自由に外に出られるように、ハード面でも配慮してます。お天気が良い日はオープンカフェでお茶をしたりとその日の個々の希望やお天気に寄って戸外に出かけられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年は、サーカスに行きたいかの希望をとり、結果全員で行きました。御家族もお誘いしました。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は内外において自由にかけられる環境にありますし、かけてらっしゃる方もいらっしやいますし、。季節毎の挨拶のハガキなど準備したり等、支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問して頂けるよう、玄関を開放していたり入りやすい雰囲気作りに表に植木を置いたり、そして何より、御本人を含め自分たちが外に多く出るようにしています。御訪問時は、次も又来ていただけるような声かけをし、次回の訪		
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は一切していません。拘束しなくても生命の安全が守れるようなケアを実践しています。身体拘束は言葉による拘束も含め機会がある毎に職員間で気軽に話し合うようにしています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけない事が当事業所では普通の事なので、目配りや職員の所在の為の声かけを徹底するようにしています。鍵をかけないのが当たり前なので、鍵をかけないケアの工夫という着眼点でのケアはしていません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時々、無断外出される方がいらっしやいました。お寿司など御自分が食べたい物を買いに近所のスーパーへ行かれていたのですが、事前に職員が察知していた情報を集めて観察すると、無断外出の予測が出来るようになり、基本的には		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在、使用中の粉洗剤は見えるところに置いてあります。液体洗剤はカーテンで目隠してあります。お薬は事務所等で管理していますが、これらの物品は、お一人お一人の状況に寄っては、保管場所の検討を行い危険を防ぐ取り組みをしてお一人お一人の歩行状態や移動手段、食事の摂取状況など細かいアセスメントが必要で、その情報を共有する事が大事になります。そういった事を踏まえ、事故防止に取り組んでいます。誤薬に関しては必ず①準備した時②御本人		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	お一人お一人の歩行状態や移動手段、食事の摂取状況など細かいアセスメントが必要で、その情報を共有する事が大事になります。そういった事を踏まえ、事故防止に取り組んでいます。誤薬に関しては必ず①準備した時②御本人		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練を定期的には行っていないが、連絡網として看護師と24時間連携を取っているため、まずは指示を仰ぎます。	○	今後定期的に、想定される事故に対する応急手当や初期対応の訓練を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	平成18年1月の大村グループホーム火災発生直後の10日に近隣協力隊を結成し、近所の消防団や地域の青年会を中心に協力を依頼し、引き受けていただきました。今年度は、夜勤に入るメンバーに夜間の避難訓練をするよう計画して事業所が生活道路に面しているのにも関わらず、玄関に鍵をかけていない事により、タクシー等が頻繁に通っていたりするために、御自分でタクシーを停めて乗車されたりとの経験からその可能性がある方には十分に御家族へ説明さし		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事業所が生活道路に面しているのにも関わらず、玄関に鍵をかけていない事により、タクシー等が頻繁に通っていたりするために、御自分でタクシーを停めて乗車されたりとの経験からその可能性がある方には十分に御家族へ説明さし		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	尿回数の減少や排便、食事摂取状況やバイタルサイン等を中心に異変の早期発見に努め、気付いた際には看護師へ報告し、対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬全てに精通しているわけではないですが、かかりつけの薬剤師に個々の服薬内容や副作用の症状などの勉強会をして頂いたりし、飲み続けないと行けない薬や、副作用が激しい薬に関しては理解しており、常に症状の変化の便秘は精神症状や興奮状態を誘発しやすいので、食事や水分、就寝前のココアの摂取はもちろん、運動やドライブ、腹部マッサージや温罨法などで働きかけを様々な方向から取り組んでいます。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘は精神症状や興奮状態を誘発しやすいので、食事や水分、就寝前のココアの摂取はもちろん、運動やドライブ、腹部マッサージや温罨法などで働きかけを様々な方向から取り組んでいます。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の不潔は肺炎や気管支炎などの疾病を誘発しやすく、その上、口腔内が不潔な状態により、食欲の減退や、摂食嚥下能力の低下から誤嚥性肺炎など、高齢者にとって致命的と言える為、当事業所では毎食後個々の状態に合わせた食事に対する想いはお一人お一人違い、その想いや好み馴染みの物、季節毎の旬のもの等活用しつつも、全体的にバランスの取れた食事、必要な水分量の確保等も把握しつつ、食がすすまない方への個別の支援に努めています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前回の第三者評価後に作成していた、感染症に対する取り決めが実践に役立ち実行できました。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日、どの時点で漂白や消毒するなど取り決めて、実際に行っています。又、食材に関しては、新鮮で安全な食材を毎日、その日その日のものを仕入れ調理しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり		
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	安心して、気軽に立ち寄って頂けるように、玄関先にお花を飾るスペースを作ったりベンチを設置したりすることで、立ち話や休憩が出来るようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が築50年の旧民家を改装している為、生活しやすい雰囲気になっています。自然な音や光があり、程よい広さもあり、居心地良く過ごせるような工夫もしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様々な場所に、色々な椅子を置いたりする事で共用空間の中で思い思いに過ごせるような工夫をしています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の使い慣れた物を持ち込んで頂いています。居室のソファに足を下垂する事で浮腫みが出られる方はローソファを設置したりしています。フローリングの居室でも畳を敷いたり、畳のお部屋でもベッドを置いたり、御本人の生活歴		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には、温湿度計を設置し、各個人の身体状況等に合わせた空調管理に努めています、共用スペースにも温湿度計を設置し、時間を決めて、温度・湿度をチェックし記録、その際に換気も行っています。居室の換気も大体その時間に合わせて実施しています。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	代表者が日常生活の中での、生活リハビリをモットーにしており、日常生活の中でその方の身体機能を活かして、安全かつ自立した生活が送れるよう、努めています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の判別できない方には、1年ほど掛かりましたが、共用スペースから自室までお部屋の案内表示をしていたり、洗面所にてコップ歯ブラシを使用後、自室のタンスや鏡台の椅子の中にしまわれて、次回使用時にないんです。と言われ盗られたんじゃないかという考えに発展される方は、スタッフが洗面所を通る度にコップや歯ブラシの		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	当事業所の立地が商業地にある為、庭がありません。しかし狭いながらも、工夫して玄関先に植木を育てています。表にベンチも設置し、ひなたぼっこや水やり等しています。他近所に畑を借りて、雑草抜きや収穫等の活動をしています。		

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2／3くらいの 《 》③利用者の1／3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2／3くらいと 《 》③家族の1／3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 ○ 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2／3くらいが 《 》③職員の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2／3くらいが 《 》③家族等の1／3くらいが 《 》④ほとんどできていない